

栽培種目：マスクメロン（タカミレッド・アムス）

柏地域で美味しいマスクメロンが出来るか？ 実践する。

チーム名：

氏 名：小沼啓達 （1-J）

〈 要約 〉

私の知る限り、柏地域で栽培されたマスクメロンが販売されている光景を見た記憶が無い。昨今の地球温暖化現象による変化で、動植物もその影響を受けざるを得ない状況にあり、我々の住む柏地域も例外ではなく、気象条件が生物の生息地域の変化をもたらしている。環境の変化をチャンスと、無知では有るが価値ある栽培を試みた。

日照時間・気温・雨・湿度・風・カビ類・害虫類等を観察し、栽培実証をした。

1. 初めに

昨年プリンスメロンの栽培経験をしたが、満足な結果を得なかった。今回は経験を活かし栽培に役立たすべく対処しました。特に本体に出来るだけ触らない、直接水が掛からないように、適温の維持、梅雨時の湿度・カビ類の対処等、当たり前で、デリケートな部分に注意した。

2. 方法

畑＝5月初旬幅120cm長さ380cm
畝＝上記〃 地上20cm地下30cm
幅90cm長さ360cmマルチ2重敷き
肥料＝鶏糞 m^2 2kg 苦土石灰 m^2 60g

薬品＝オルトランを m^2 10gを散布

トンネル栽培＝メロンハウスを作る

※長さ 450cm 幅 120cm

高さ 130cm ハウス内支柱立て

※ハウス外装 上部から側面1mまで

防虫ネットとビニールシートの二重

仕立て。下部側面30cmを不織布に

に仕立てた。

※ドアのセット 側面幅部分に不織布

と防虫ネットを半々に張り取り付け

※日照・害虫・防水・温度・湿度・通気

等に配慮する。

苗の準備＝4月下旬メンバーの油橋さん

ポット入り2株を入手。タカミとアムス。

受粉法＝人工授粉

受粉後結球＝1株2個とし他は摘果する。

糖度目標 25度は試行錯誤中。

3. 経過と結果

定植時期＝5月15日

5月中・下旬生育状況＝きわめて順調

摘芯＝5月末タカミ親づる本葉6枚を残し、

子づる2本残し摘芯。

追肥＝同日化成肥料 m^2 50g 施す。

6月初旬 アムスを親づる本葉6枚を残し
子づるも2本残し摘芯。

追肥=同日化成肥料を m^2 50gを施す。

視察=飯岡JA タカミメロンの栽培実態
JAさんの協力によりメロン栽培歴
20年超、プロ農家さんの畑を見る
事が出来、更に栽培法等の質疑にも
?答えてもらえた。(6月7日 pm)
売れるメロンの栽培法を少し覗けた
感想、目から鱗。

人工授粉=6月10・13・14・16日

6月中旬 花が咲いた(雄花・雌花)のを
確認し am9時~10時頃試みた。

結球の確認=6月16日アムス2個5cm
タカミは未受粉引き続き期待。

6月下旬 タカミ未受粉、再度人工授粉を
試みる。一方アムスも2個以後受粉せず。
※人工授粉は殆ど失敗と考えられる。

梅雨時の対策=6月下旬葉・茎に白色斑点
を確認(6/21) ※うどん粉病発症。
葉・茎に灰色・黒カビ確認(6/25)
弦枯れ病他?発症。 ↘(しおれた)
あっという間に株全体が萎れた状況。

※湿度の低下対策=ハウスの通気改善の為
セットしたハウス下部の不織布に切れ込
みを入れ、更にドアを開放した。

※カビの除去対策=症状の悪い葉を除去。
葉・茎・メロン・畝に敷いたマルチ全体
を布地でふき取り、水洗浄を行った。
同時に考えていたマグネシウム弱溶液を
株の根本・茎全体・葉の裏表・マルチに
たっぷり散布(6/25~7/15 5回)

※異常気象高温対策=連日の30℃越え
と梅雨の雨量結果ハウス内温度は
高温時37℃、又ハウス内の水滴量は
想定以上に多くなった為、ハウスの
外装上部のビニールシートを外し、防
虫ネット1枚とした。(短時間乾燥)

益虫と害虫=密閉度の高いハウスにて
殆ど入らなかった、(6/25) 迄は
日照時間=透明二重外装の為、影響なし。
風=上部から1m下までビニールシート
の為、強風時の影響なし。

7月中旬 生育状況の確認=メロン全体の
病状はうどん粉病状・黒カビ・灰色カビ
は殆ど除去された。

※残念ながらアムスは株全体が枯れ懐死
メロン2個も成長途中で処分した。
※タカミは、子づる1本は枯れ懐死処分。
残った子づるから出た孫づるが奇跡的
に1本だけ生き残った。

7月中旬 受粉法の変更=自然受粉法へ
※タカミは此処まで人工授粉も失敗。
蜂が来るか、瓜葉虫も含み時期が心配

7月下旬 生育状況の確認(7/21・
7/25)=順調に生育、ひ孫つるも出た。
同時に雄花・雌花も咲き良く観察すると
つるの間に結球したメロンを2個発見。
(10cm・5cm) 嬉しかった。

8月中旬 =マグネシウム弱溶液を週1回
計3回散布(効果は?も)した。
結球2個は順調に成長していた。(8/
高さ15cm幅17cm・同15cm
同13cm収穫予定は9月25日頃)
※心配は瓜葉虫と、うどん粉病と思う。

8月31日 生育状況の確認＝本体全体が黄褐色に変化し、葉は多少縮み状態となっていた。(瓜葉虫影響・最終期に入り体力が弱ってきたか？うどん粉病も発症) 1個のメロンは茎が枯れ壊死状態となり止む無くカット収穫した、(予定日は20日後の為当然未熟も 重1,110g 高17cm 幅16cm 糖度11,4° 食してみたが堅かった。残念にも失敗)

残る1個の茎・葉は生きていたので、収穫予定日迄 後25日頑張れの思い。

(高15cm幅13cm重約1,000g)

9月1日 栽培終了の日となってしまった、amに畑に行き確認もメロンが消えていた。茎にカットの症状が見えた。心無い人？ 啞然・呆然・口惜しさ・一瞬にして楽しさから悲しさが変わって残念乍ら終了した。

① 畝



③5月定植状態 参考写真



4. 考察

メロンとは暑さに強く
寒さに弱く
風に弱く
水に弱く
湿度に弱く
カビ類に弱く
害虫に弱く

実にデリケートな植物であった。

5. 纏め

当初より課題であった 水はけ・湿度・カビ類・瓜葉虫・等の対処が適切に出来なかった。支柱立体栽培も、ハウスの高さ不足で出来ず、改めて簡単では無い植物と感じた。気象環境を考え栽培時期を変更するのも一考。機会があれば再度、実践したい。

②小型メロンハウス



④6月アムスメロン結球状態



⑤6月病気状態



⑥7月復活した子づる。



⑦7月花が咲いた状態



⑧8月下旬順調に生育の状態 A



⑨8月下旬順調に生育の状態 B



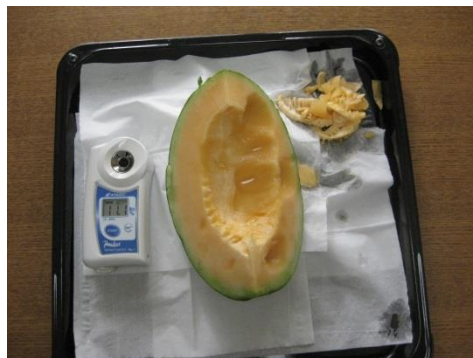
⑩9月1日枯れたメロンB消えた



⑪8月31日収のメロンA



⑫9月7日カット未熟 堅い



⑬9月7日糖度計測

